

## 第4回富谷市行政改革懇談会 会議録

日時：平成30年1月12日（金） 午前10時から午前11時20分まで

場所：富谷市役所3階 305会議室

出席委員：草間座長，平岡委員，村上委員，品川委員，泉委員

※計5名出席（2名欠席）

富谷市：市長，副市長，教育長

事務局：企画部企画政策課長，企画政策課行政改革推進室長，同主幹3名

オブザーバー：企画部長，総務部長，市民生活部長，保健福祉部長，経済産業部長，建設部長，教育部長

### 1 開会（司会：企画部企画政策課長）

### 2 開会挨拶（若生市長）

おはようございます。改めて，新年明けましておめでとうございます。昨年中は皆様に本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。また，本日は新年早々，ご多忙の折に参加いただきまして，本当にありがとうございます。

昨年から引き続き，この懇談会において貴重なご意見をいただきまして，そのご意見を踏まえながら，これまで基本方針（案），実施プラン（案）を取りまとめさせていただきました。いよいよ今日は最終案の取りまとめということでの会議になるわけでございます。今年度，いただいたご意見を取り入れられる部分については，すぐに取り入れながら行政運営にもあたってまいりました。現在，平成30年度の予算編成を進めておりますが，予算を組む上におきましても，この行政改革懇談会でいただいたご意見を反映しながら進めているところでございます。

大事なことは，基本方針（案），実施プラン（案）が出来上がった時に，これをいかにしっかりと実行に移していくかということだと思っております。その前の最終案に対してのご意見をいただき，しっかりした基本方針，実施プランを作り上げ，実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので，よろしくお願いいたします。

### 3 議事

※ここから座長により議事が進行された。

#### 【草間座長あいさつ】

改めまして，委員の皆様，明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

2018年が幕を明けました。富谷にとって大事な数字は，2018よりも1038だと思っています。10は「と」で，3は「み」，8は「や」です。1038というのは，共有したい数字だと思っています。これを日本語に置き換えると，「十分（10）に，未来（3）に，末広がる（8）まち とみや」という形になるのではないかなと思います。これをクイズに出して答えられた方は，ブルーベリーを贈呈してはいかがでしょうかと思っています。

さて，富谷は発展していて，日本が注目しているまちのひとつでございます。この発展をさらに勢いづ

けるための懇談会ということでございます。

本日は、大きく2点ございます。基本方針と実施プランについて、皆様にご意見を賜りまして、議事を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日も前回同様にオブザーバーとして、各部長にもご出席をいただいております。細かい点については、部長に発言を求める場面もあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題は、基本方針と実施プランについてです。事務局から一括して説明をお願いします。

- (1) 富谷市行政改革基本方針（最終案）について
- (2) 富谷市行政改革実施プラン（最終案）について

**※事務局より資料1，資料2，資料3及び参考資料1に基づき，説明。**

**（草間座長）**

説明ありがとうございました。大きく4点説明いただきました。パブリックコメントと資料1から3です。パブリックコメントについては、この懇談会では、直接意見を求める事項ではございませんので、参考にとということです。

それでは、資料1，2，3の順に皆様のご意見をいただきたいと思っております。前回の発言を踏まえて、事務局で整理をした資料1についてはいかがでしょうか。

**（平岡委員）**

1点だけよろしいでしょうか。15番の地区懇談会の開催についてです。懇談会には毎年、町内会長、副会長、役員を中心に参加させていただいております。今後あり方を検討していくということですが、懇談会では、一般の市民の方もそこで何かを発言しようと思っただけで参加しています。ところが、私たちのような町内会長や役員が先立ってしまい、何も言えないままに終わってしまうということも実際にお聞きました。6つの公民館がありますし、回数を増やすのは行政側も大変だと思いますので、この懇談会は、そこに行って発言して、何でもやってもらおうという形ではなく、できれば開催の仕方や中身を変えていただいで、参加しようとしている方が、参加しやすい、身近な市民の意見を聴く場所として考えていただければと思います。懇談会の回数を増やして欲しいというのではなく、内容を変えていただきたいと思っております。

**（草間座長）**

その他はいかがのでしょうか。それでは資料2については、いかがでしょうか。

**（泉委員）**

9ページの基本方針2の文章の最後の部分ですが、「市民と行政間の情報の相互共有に努めます。」で終わっているのですが、「相互共有を図った上で、対話と理解促進に努めながら取組みを推進する。」などともう少し踏み込んだ表現があってもいいのではないかと思います。

**(草間座長)**

ここについては、文章を再構成していただくということで整理してもらえればと思います。

その他に基本方針について、ご意見いかがでしょうか。

それでは、基本方針については、今あったご意見を踏まえて、文章を再構成していただくということで、よろしくをお願いします。

続いて、資料3の実施プランについて、いかがでしょうか。

私の方で1点確認です。23ページの「34 不用物品売払いの推進」で、参考までにですが、買取業者については、どこを想定していますか。

**(事務局)**

こちらについては、公用車を検討していきまして、特定の業者ではなく、いろいろな買取業者を想定しています。競り売りというのも想定しています。

**(草間座長)**

高萩市の例ですが、行政改革で市有のバスを処分するとなった時に、買取りというより、逆に処分費用が発生すると言われました。市場を広げないと逆にお金がかかってしまうということで、ヤフーのインターネットのオークションを使うこととしました。結果、当時のヤフーインターネットオークションでの最高価格（1,005万円）で売却できました。

ですので、業者のみで考えると、なかなか難しいかもしれません。ここは「買取り業者」というよりも「売却先」とされたほうがよろしいのではないかと思います。公共資産の売却については、業者ありきではなく、さまざまな手法によって売却するとか、多様な手法というようにした方がよろしいのではないかと思います。最終的には収入が入れば、市民に還元でき、予算付けや重点事項に振り向けることができます。

その他はいかがでしょう。

**(品川委員)**

18ページ「27 事業見直しによる歳出抑制」です。ここがかなり規模の大きい内容になっています。前回もここがよく分からないということで、意見を出していましたが、今回の修正で注釈が付いていて、「削減見込額の中には、平成29年度に事業が終了するものも含まれています。」とあります。これがどのくらいの額なのかによって、この数字の見え方も大きく変わってくるのかなと思いますので、把握しているのであれば、そこを教えていただければと思います。

**(事務局)**

今日の手持ちの資料ではお伝えできません。申し訳ありません。

**(品川委員)**

既存事業から削ると事業が終わったことにより歳出が減るのでは全然違うと思います。既存事業からの削減額だとこの数字は、かなり大変なのかなと思います。

**(事務局)**

整理させていただきます。

**(草間座長)**

中身と見せ方でしょうか。私も経験がありますが、こういったものを作るときには大枠で見せるパターンが多いです。私の場合には、財政危機団体になる見込がありましたので、千円単位まで入れました。それは危機があったからです。基本的にはこういった書きぶりになってしまうのかと思います。あとはどのぐらい見せていくかという部分は工夫が必要になってくるという部分があります。

**(品川委員)**

ここが、行政改革の肝になると言いますか、一番大事なところだと思います。それにもかかわらず、この懇談会の中では数字だけがポツと出てきたということになってしまうのではないのでしょうか。

**(草間座長)**

見せ方の工夫でしょうか。例えば、項目で出すとか。大きな項目になるかもしれません。

**(市長)**

自動的に前年のものが無くなるものと、今回の行革によって終了するものがありますので、そのあたりの違いがなかなか難しいと考えています。

**(草間座長)**

見せるとすれば別立てで「行財政健全化計画」みたいなものを作ればいいのではないのでしょうか。ここは行政改革懇談会でフワッとした、フレームワークの計画を作ろうということになります。

今のご指摘は、これだと大きくくりなので、もうちょっと中身が分かるような、例えば、継続、削減というような形を出せるかどうかだと思います。

ご指摘はそのとおりだと思いますので、今回は間に合うかどうか分かりませんが、見せ方については検討いただきたいと思います。

**(村上委員)**

私も歳出削減の部分がポイントだと思っています。金額の積み上げまで踏み込んでいて、財政健全化に対する意欲や健全な意味での危機感があって大変良いことだと思っています。

それを踏まえて、9ページの基本方針1に戻ります。書き方としては仕方がないとは思いますが、実際は辛いだろうと見ていたのは、「行政経営能力の向上」の中で、最後に「行政サービスのさらなる高品質化を目指す。」とあります。一方で歳出削減や働き方改革で残業などを削減しながら、本当にさらなる高品質化というのができるのだろうかとか単純な疑問として思ってしまう。もちろん、頑張っていたいただきたいと思っていますが、職員の方の葛藤が垣間見える部分かと思って見ていました。

### (市長)

この懇談会の中でいただいたご意見にあるように、どうしても行革となると切り落とすという暗いイメージや痛みだけが感じられますが、その中であってでも行政サービスなり、質は向上していきますという取組みの姿勢を伝えられた方が、私たちとしては大事ななと思っていました。

### (村上委員)

そうであれば、実施プランの中で高品質化を目指す計画が、もう一步踏み込んだ形で書かれていてもいいのかなと感じました。

### (草間座長)

方針というのは、大まかにこうやりますよというのを書いて、次に具体的なものが実施プランになるわけです。書きぶりは当然変わるわけです。行革に対する考え方と反映の仕方ということです。高品質化の部分がどこに入っているのか、どこで読み込めるかということだと思います。

これは人材育成ということになるのかと思います。例えば待遇だと、昔の役所の待遇と今では随分違います。あいさつの仕方やコンシェルジュの設置など、まさにサービスの品質が上がっているということになると思います。

### (平岡委員)

これからの行政改革です。箱ものはそれほど作っていないで、市民の方も安心しているのかもしれませんが、市の計画を見て、これから5年先を考えると、これだけのものをやって、将来的に赤字にならないのかと心配になります。赤字が出ないための行政改革ですと言われれば、そうかと思ったりもしますが、やはり心配になります。良いものを残して、またさらに新しいものをとると、ある程度削ったりしていかないと、無理が出るのではないかと思います。大事なものは進めてもらっていいと思いますが、全体的には、もう少しゆっくりと進めていってもいいのではないかと思います。

### (品川委員)

今回、行政改革の計画案を作成したことで、非常に意義があるなと思ったのが、富谷の現状がよく分かる資料ができたということです。なんとなく富谷にはお金があるのかなと思っている住民も多いと思います。今回の資料で示された富谷の実情としては、確かに財政調整基金は多いですが、実質単年度収支で見ると、平成24年度から赤字が続いています。さらに今後行政改革をしないでいると、もっと財政状況は悪化していく状況が分かりやすく示されています。このような資料が計画案の中で示されたことに非常に意義があると思います。今後、富谷の財政を議論する時には、この資料が基礎資料として、重要視されるもののひとつとなり、これを無視した議論というのは、説得力を欠くような意義のある資料になったのではないかと思います。

現在の財政状況は、特定の誰かのせいではなく、これまでの富谷の状況、人口増や市制施行による扶助費の増加などが出てきて、自然とこうなってしまった部分があるわけです。この現状を受け入れた上で、痛みもあるとは思いますが、事業の削減等を行う際の市民への説明の資料としても使えるものであると思います。

### (草間座長)

少し話がそれましたので戻します。

行政改革に対する考え方と市の方策の話だったと思います。見せ方については、市長がおっしゃるように、行革というとは必ずマイナスのイメージがあります。削る話になりますが、逆に生み出していくということもありますので、数字の見せ方として、歳出削減で生み出したものと、歳入増で生み出したものとあります。額は少なくとも歳入増も図っているということもできるかなと思います。

見せ方については、今後の検討ということと、考え方については、今日は最終ということもありますので、原案を前提にやっていくということにしたいと思います。二律背反ということもあるかと思いますが、サービスの品質向上の具体的な内容については、人材育成などを通して、組織として高品質を目指していくということになろうかと思っています。

### (市長)

今回の策定に際しては、担当レベルから全部の事業を見直しさせていただいています。ここにいる管理職だけではなく、担当の職員から上げてきている作業ですので、共有が図られているものとなっており、意義があるものになっていると感じています。

### (泉委員)

今出されたご意見というのは、非常に難しい部分かなと思っております。行政改革というとは、先ほどからありますように削減というイメージがあります。今は歳入を増やすということがなかなかできない状況で、昔であれば、職員や給与を減らすということもやっていましたが、限られた資源でいかに生み出していくかというところに視点を置くと、やはり、職員の資質向上と職員をどのように活かして組織としてプラスアルファでやっていくのかという取組みが重要だと思います。それと法律（地方自治法）の中で公共の福祉の増進というのは常にありますので、そこは前提になっておりますので、全てはそこに向けていくということになろうかと思っています。

1点ですが、「持続可能な財政運営」の中で、事務事業の見直しに関連するところもありますが、私の場合は県になりますが、市町村であれば、より住民と直結する事業がほとんどですので、理解を得ながら削減をしていくというのは、なかなか難しいのかなと思います。

見直しの視点としては、自主財源を減らして、国や県などの補助メニューを活用しながら事業を進めていくというやり方をしていないと、市の場合は難しいのかなと思います。国や県のいろいろな補助メニューが各所属に流れているはずですが、うまく活用されていないというのが現状だと思います。行政は苦手な部分になるかと思いますが、組織の横の連携を「創造的な組織体制」ということで構築し、そういった補助メニューなどの情報を1箇所に集めて、うまく活用していくという方法があるのかなと思っています。情報をまとめることによって、そのメニューの別な使い方も庁内で議論できるのではないかと思います。

**(草間座長)**

今出てきた話題に関連して、これは日本で始まったばかりですが、EBPM (Evidence Based Policy Making = 証拠に基づく政策立案) というもので、これは根拠に基づいた施策づくりです。客観的なデータがなければ、執行しないということが始まっています。日本は、政治的な事情が入ってしまうということがあって、残念ながら、韓国よりも遅れてしまっています。徐々に日本でも始まってきていますので、いずれは、エビデンスに基づいて執行していくということになるかもしれませんが、なかなか市町村では難しいかもしれません。いずれこのあたりの開発も必要になってきて、予算説明などで使われるようになるかもしれません。

行政改革に対する考え方の議論になっていますが、その他いかがですか。

実施プランの中身についてはいかがでしょうか。見せ方の部分について出てきていますが、これは今回の課題ということで整理をさせていただいて、策定に間に合わなければ、次回の課題ということで、引き続き継続させていただければと思っています。

私から1点感じたのは、14ページのPVの数字と21ページのふるさと納税の金額の部分についてですが、この数字に根拠が無いのであれば、市民に対しては数字として、5%アップ、10%アップというのが分かりやすいのではないかと思います。ここの数字は、事務方が頑張っているなど、もう少し下げてもいいのではないかと感じています。根拠がなければ、10%上げるとか、難しければ5%にするとか、とにかく確実に上げていくという姿勢で良いのではないかと思います。

**(市長)**

こちらは現状の数値を踏まえて、目標の設定はしています。

**(副市長)**

ふるさと納税に関しても、現状の数値を踏まえて作成しています。

**(草間座長)**

分かりました。大丈夫だということです。

必ず歩留まりというのは出てきます。次にまた上げていくという時には、今まで上げてきた部分を見ないで議論していきますので、こういった数値の部分は、次の次あたりの行政改革の時には、勇気を振り絞って、維持していくとか微増としても良いかもしれません。私たちが見やすいのは、上げていくということなのですが、右肩上がりとか成長志向というのは、21世紀に入ってからでは、なかなか難しいです。現在では、維持することが衰退の傾斜を緩やかにするというところで、努力の成果ということにもなります。

計画自体についてのご意見は、よろしいでしょうか。

今日は最後ということで、行政改革の中身よりも考え方について、ご意見をいただきました。他に全体を通してご意見ございますか。

**(品川委員)**

パブリックコメントの内容を参考資料としていただきましたが、パブリックコメントの仕方について、検討する余地があるのではないかと思います。

今回の実施のタイミングや期間の問題、それと掲載の方法についてですが、今回3名の方がいらっしゃるということでした。それを今回は、トピックごとにバラバラに掲載していますが、それはどうなのかなと思っています。出した人がどういう考えなのかというのがありますが、私が提出者だとすれば、文章で書いたそのまま載せて欲しいと思います。他の方と混ざって載せられるというのは、私の場合は違和感があります。

加えて、今回は全て匿名となっていますが、実名・匿名の選択性にするとも考えられると思います。また、人によっては利害関係のある方もいると思います。政治家や関係団体の方が匿名で出してきたとすると、それが意見として出たときに、いわゆるポジショントークのようなものが、あたかも一般の市民の意見として掲載されることもあり得るわけです。そのため、人によっては実名でなければおかしい場合もあるのではないのでしょうか。富谷市のパブリックコメントは、全てこのような掲載方法をしていると思いますが、検討の余地があるのではないかと思います。

**(草間座長)**

今のご意見の前に、資料3については、よろしいでしょうか。

資料1から3については、これで了承いただきました。

それでは、パブリックコメントについて、ご意見をいただきました。

私は、国の委員をいくつかやっていますが、基本的には富谷でやっている方法が多いです。こういう形がスタンダードのようです。公表の仕方については、おっしゃったように選択性として載せられるかもしれませんが。実名か匿名かについては、本人の自己決定ですので、実施可能性は高いのではないかと思います。

**(品川委員)**

一般の方は原則匿名が良いと思いますが、立場上実名でなければおかしい人には、実名をお願いしますということになると思っています。そういう議論というのはあまりないのでしょうか。

**(草間座長)**

やり方の工夫の問題ですので、実施する時に選択性にするというのはあるかと思います。心配なのは、公表された場合に個人に何らかの侵害があったりすると、役所としては配慮しなければならないという部分はあると思います。不特定の人が見て、それがネット上に波及し、その処理を役所でしなければならないとなると、市に確実に提出してそこで終わる、という形の方がリスクは少ないかもしれません。パブリックコメントは、それぞれの国・県・市でやっていますので、参考にさせていただきたいと思います。

### **(事務局)**

今回のパブリックコメントの中でもそういったご意見も頂戴しています。また、実施プランの中でもパブリックコメントの実施を掲げておりますので、今のご意見を含め、調整させていただきます。

### **(草間座長)**

今はインターネット上に匿名の掲示板などがありますので、特に行政が行うものについては、十分に危険回避をしていた方が良いでしょうと思います。

その他のご意見いかがですか。

それでは私の方から、最後にご挨拶を申し上げさせていただきます。

皆様には、4回に渡ってご意見をいただき、本当にありがとうございました。今の富谷で考えられる限りの総力を出せたのではないかなと思います。改めて、市長はじめ、担当部局の方々にご尽力いただきましたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。冒頭申し上げましたとおり、富谷は、十分に未来に向かって末広がりするまちです。良いまちになると思います。

それでは、事務局にお返しいたします。ありがとうございました。

### **(司会：企画政策課長)**

皆様ご意見ありがとうございました。本日いただいたご意見をもとに、最終的な基本方針・実施プランを作成していきたいと思っております。完成したものを3月中には、皆様のもとにお送りさせていただきます、ご報告とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

## **4 閉会挨拶（高橋副市長）**

改めまして、草間座長はじめ、各委員の皆様、本日まで4回に渡って貴重なご議論をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、行政改革基本方針・実施プランについてまとめることができました。内容についても、皆様のご意見をいただいたこともあって、良いものができたのではないかと考えております。また、本日は行政改革に対して魂を入れるようなご意見もいただきました。ご意見を踏まえ、職員一丸となって、市民の皆様と協働しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。改めて、御礼を申し上げて、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

## **5 閉会**